

音楽Ⅰテスト	西洋音楽史（ロマン派）	教科書 『高校生の音楽1』	P.46 ハバネラ P.132 西洋音楽史 ロマン派① P.136 西洋音楽史 ロマン派② P.138 オペラの世界
	氏名	得点	/50点

- ① 「西洋音楽史」の「ロマン派①」について、正しい文章になるように（ ）の中から1つ選び、
○で囲みなさい。（各2点=12点）

18世紀末、それぞれの民族に固有の歴史や文化を見直したり、個人の（理性 生活 感情）や想像力を重視したりする「（現実 ロマン 理想）主義」という新しい文化潮流が生まれ、諸芸術分野に大きな影響を与えた。19世紀の音楽は、（貴族 市民 農民 労働者）階級とともに発展し、（儀式 教会 集会）や宮廷だけでなく公開コンサートや私的なパーティーでも楽しめるようになる。作曲家はフリーランスとして活躍するようになり、楽譜の出版も増加した。また、バガニーニやショパン、リストなどの「（ヴィルトゥオーソ マエストゥーノ マエストロ）」と呼ばれる超絶的な演奏技術をもつ演奏家が登場した。

この時代には、歌曲やオペラの他、交響曲や交響詩、協奏曲、（マスター キャラクター ヴァイオリン）・ピース、バレエ音楽などのさまざまな器楽ジャンルが発展した。

- ② 「菩提樹 連作歌曲集《冬の旅》から」の説明として正しいものを次から1つ選びなさい。

- ア 〈菩提樹〉は、連作歌曲集《美しき水車小屋の娘》の第5曲である。
イ 〈菩提樹〉の歌詞は、ミュラーによる詩に基づいている。
ウ 〈菩提樹〉では、恋人のいる町へ戻ろうとする青年の心情を歌っている。
エ 〈菩提樹〉を作曲したシューマンは、600曲以上の歌曲を残した。

(2点)

- ③ 「西洋音楽史」の「ロマン派②」について、それぞれ正しい文になるように（ ）の中から1つ選び、
○で囲みなさい。（各2点=16点）

- ア （民族 古典）主義の作曲家は、伝説や歴史、風景、民謡などに着想を得た作品をつくった。
イ （ロシア チェコ）国民音楽の創造に情熱を傾けたスマタナは、連作交響詩《我が祖国》を作曲した。
ウ シューベルトやシューマンは、歌と伴奏が一体となった（合唱 歌曲）を多く残した。
エ 器楽の分野では、文学的、絵画的内容を表現する（交響詩 協奏曲）などの作品が生まれた。
オ （バロック 古典派）時代に生まれたオペラは、ロマン派の時代に黄金期を迎える。
カ ロマン派の作曲家は、ドラマと音楽の融合を目指し（オペラ 交響詩）をつくった。
キ ウエーバーは、（ドイツ イタリア）語によるロマン派オペラを確立した。
ク フランスで活躍したオッフェンバックは、（オペレッタ オペラ・コミック）を次々と発表した。

- ④ オペラ「カルメン」や劇中で歌われる〈ハバネラ〉について、正しい文章になるように（ ）の中から1つ選び、○で囲みなさい。（各2点=10点）

オペラ《カルメン》は、（ビゼー ヴィーグナー ヴェルディ）による作曲で、1875年に初演された。〈ハバネラ〉は、第1幕で主人公（ホセ ミカエラ カルメン）によって歌われる（重唱 アリア 合唱）で、原語歌詞は（フランス スペイン ドイツ）語である。〈ハバネラ〉には、（ハイチ ハバマ キューバ）の首都ハバナで流行した舞曲のリズムが使われている。

- ⑤ 授業で鑑賞したロマン派の作品について、曲の印象や感じたこと、考えしたことなどを書きなさい（1曲でも複数でもよい）。（10点）